

第50期通期(2021年5月期)

決算説明資料

2021年7月14日
タケダ機械株式会社
証券コード：6150

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2021年5月期の決算概要 (連結損益計算書)

(単位：百万円未満切捨て、%表示は対前年度又は対経営指標との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
売上高	3,500	5,056	△1,556	△30.8%
営業利益	102	532	△429	△80.7%
経常利益	178	542	△363	△67.1%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	118	350	△231	△66.1%

	当年度 実績値	経営指標	対経営指標との差異	
売上高	3,500	3,900	△399	△10.3%
経常利益	178	40	+138	+345.4%

【前年度との主な要因】

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・前年度の第4四半期から影響が顕在化
- ・企業の設備投資の低迷
- ・展示会/営業活動の自粛→商機の消失

営業外収益/営業外費用の増減

- ・営業外収益の増減 +55
→助成金収入の増加等
- ・営業外費用の増減 △10(損失の減少)

【経営指標との主な要因】

新型コロナウイルス感染症の影響期間

- ・上期中の収束を予想→長期化(翌期迄)
- ・売上総利益が想定より良化
- ・助成金収入の増加等

2021年5月期の決算概要 (品目別売上高)

(単位：百万円未満切捨て、%表示は対前年度との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
			絶対値	増減率
形鋼加工機	2,095	3,497	△1,402	△40.1%
丸鋸切断機	364	356	+8	+2.3%
金 型	351	408	△57	△14.0%
受託事業他	140	206	△66	△31.9%
部 品	455	491	△35	△7.3%
サ ー ビ ス	92	95	△3	△3.5%
合 計	3,500	5,056	△1,556	△30.8%

【形鋼加工機の主な要因】

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・東京五輪からの端境期に当たり影響
- ・建設工事の延期等(内需は底堅く継続)

【丸鋸切断機の主な要因】

鋼材需要の改善

- ・自動車関連業界、鋼材加工業界の需要が回復傾向へ

【金型の主な要因】

形鋼加工機に付帯する金型の売上が減少

【受託事業他の主な要因】

工作機械の生産が減少

- ・タケダ精機株の対前年同期比 23.7%減

2021年5月期の決算概要

(連結貸借対照表：資産の部)

(単位：百万円未満切捨て、%表示は前年度との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
			金額	増減率
流動資産	3,896	3,973	△77	△1.9%
固定資産	2,455	2,473	△17	△0.7%
(有形固定資産)	(1,957)	(1,961)	(△3)	(△0.2%)
(無形固定資産)	(146)	(192)	(△45)	(△23.8%)
(投資その他)	(351)	(320)	(+31)	(+9.8%)
資産計	6,352	6,447	△95	△1.5%

【流動資産】

(増加の主な要因)

- ・たな卸資産 +108
- ・受取手形及び売掛金 +80

(減少の主な要因)

- ・現金及び預金 △294

【固定資産】

(増加の主な要因)

- ・リース資産 +29
(無形固定資産のリース資産を含む)

(減少の主な要因)

- ・建物及び構築物 △30

2021年5月期の決算概要

(連結貸借対照表：負債及び純資産の部)

(単位：百万円未満切捨て、%表示は対前年度との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
			絶対値	増減率
負債	2,281	2,417	△136	△5.7%
(流動負債)	(1,610)	(1,603)	(+6)	(+0.4%)
(固定負債)	(670)	(814)	(△143)	(△17.6%)
純資産	4,071	4,029	+41	+1.0%
(株主資本)	(4,087)	(4,042)	(+45)	(+1.1%)
(包括利益)	(△16)	(△12)	(△3)	—
負債・純資産計	6,352	6,447	△95	△1.5%

【負債】

(増加の主な要因)

- ・短期借入金 +450
- ・リース債務 +28

(流動負債のリース債務を含む)

(減少の主な要因)

- ・長期借入金 △354
(1年内返済予定の長期借入金を含む)
- ・支払手形及び買掛金 △145
- ・未払法人税等 △48
- ・賞与引当金 △26
- ・役員賞与引当金 △14

【純資産】

(増加の主な要因)

- ・利益剰余金 +45

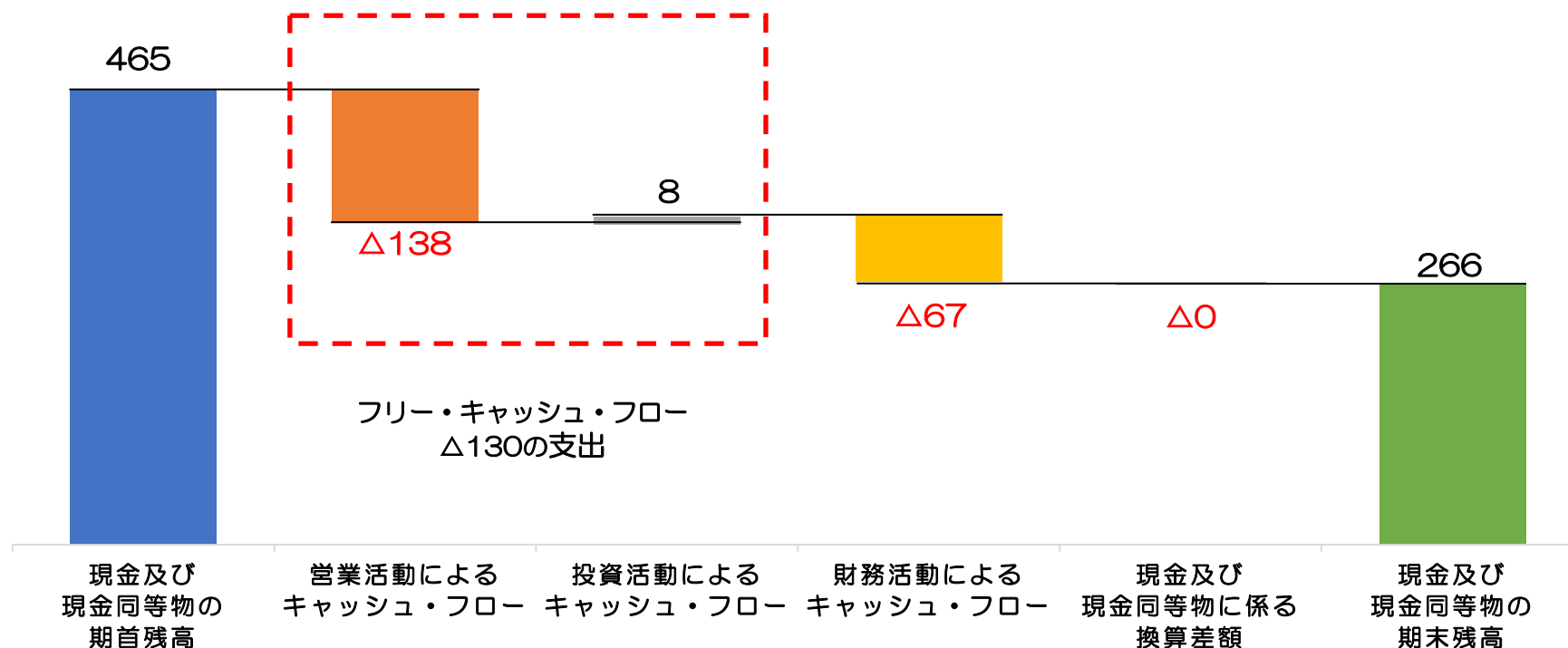
(減少の主な要因)

- ・その他有価証券評価差額金 △3

2021年5月期の決算概要 (連結キャッシュ・フロー計算書)①

当年度における現金及び現金同等物の増減推移

(単位：百万円未満切捨て)



(注) フリー・キャッシュ・フローに記載する金額は、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローに記載する金額を合計した金額になります。

2021年5月期の決算概要 (連結キャッシュ・フロー計算書)②

(単位：百万円未満切捨て、%表示は対前年度との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
期首残高	465	438		
営業活動 によるCF	△138	386	△525	—
投資活動 によるCF	8	△281	+289	—
財務活動 によるCF	△67	△77	+10	—
換算差額	△0	△0	△0	—
期末残高	266	465	△198	△42.7%

【営業活動によるキャッシュ・フロー】 (増加の主な要因)

- ・賞与引当金の増減額 +16
- ・法人税等の支払額 +138

(減少の主な要因)

- ・税金等調整前当期純利益 △343
- ・売上債権の増減額 △320
- ・たな卸資産の増減額 △14

【投資活動によるキャッシュ・フロー】 (増加の主な要因)

- ・固定資産の取得による支出 +116
(有形固定資産と無形固定資産の合計額)
- ・定期預金の支出入 +166

【財務活動によるキャッシュ・フロー】 (増加の主な要因)

- ・短期借入金の支出入 +500

(減少の主な要因)

- ・長期借入金の支出入 △494

(注) 1. 上記の表中に記載する「CF」とは、キャッシュ・フローを略しております。
2. 右記に記載する内容は対前年度との差異についての記載であり、決算短信に記載する内容と異なっております。

2021年5月期の決算概要 (直近5年間の業績推移、翌期の業績予想)①

(単位：百万円未満切捨て)

	直近5年間の業績推移					※翌期予想
	2017年	2018年	2019年	2020年	当年度	
売上高	5,167	5,374	6,141	5,056	3,500	4,000
経常利益	624	661	861	542	178	100
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	436	451	640	350	118	65

※2021年7月14日付
公表の予想数値

【翌期の見通しについて】

(プラス要因)

底堅い継続的な内需

- 都市圏の大型鋼構造物プロジェクト
- 国土強靱化基本計画によるインフラ需要
- 物流倉庫、データセンター等の建設

(マイナス要因)

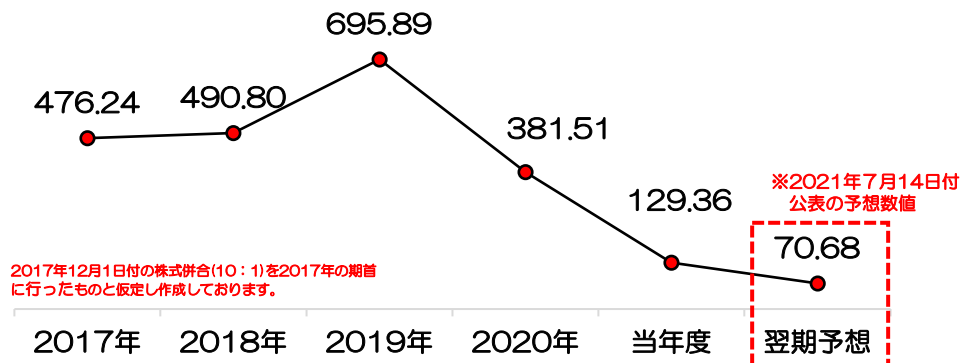
新型コロナウイルス感染症の影響

- 徐々に縮小しながらも継続する見通し
- #### 製造部品の長納期化
- 半導体以外の製造部品にも影響
- #### 鋼材価格の高騰
- 外需の高まり→品薄の状態へ

2021年5月期の決算概要 (直近5年間の業績推移、翌期の業績予想)②

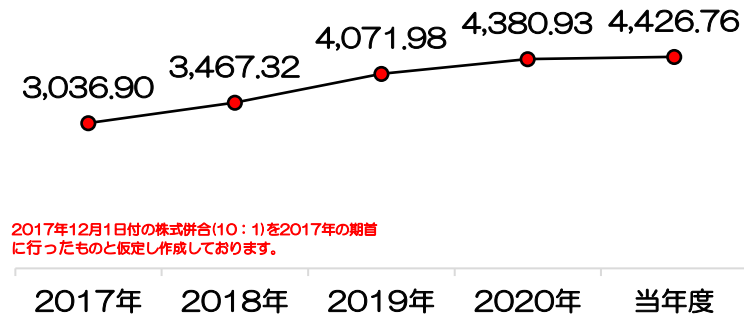
1株当たり当期純利益

(単位：円)



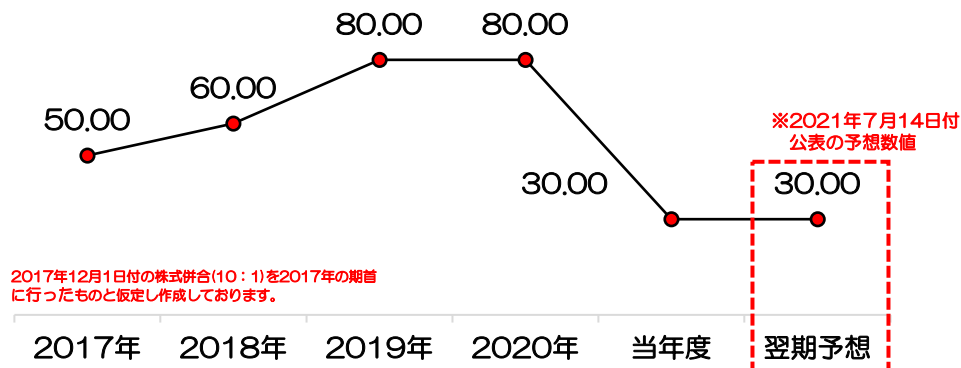
1株当たり純資産

(単位：円)



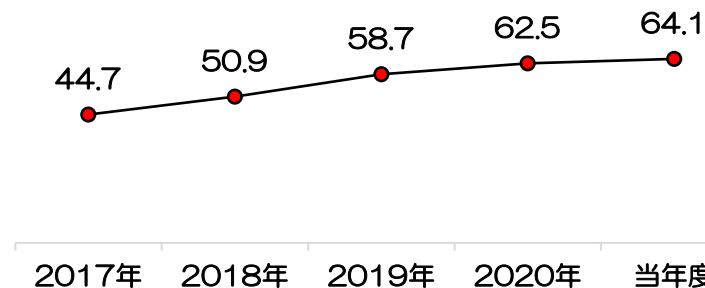
1株当たり配当金

(単位：円)



自己資本率

(単位：%)



2021年5月期の決算概要

(直近5年間の現金及び現金同等物の推移)

(単位：百万円未満切捨て)

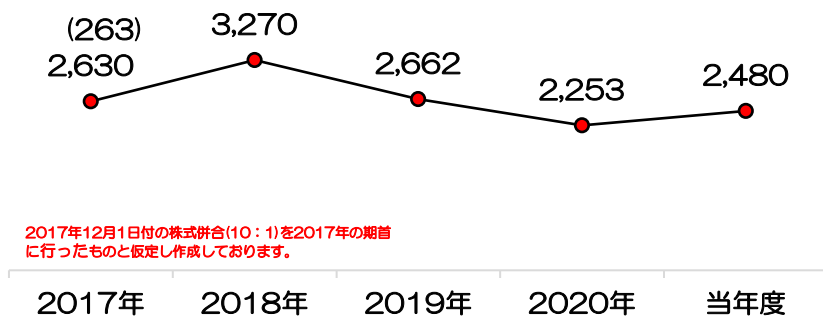
	直近5年間の現金及び現金同等物の推移				
	2017年	2018年	2019年	2020年	当年度
期首残高	236	338	206	438	465
営業活動による キャッシュ・フロー	324	407	769	386	△138
投資活動による キャッシュ・フロー	△157	△45	10	△281	8
財務活動による キャッシュ・フロー	△67	△492	△548	△77	△67
換算差額	2	△1	0	△0	△0
期末残高	338	206	438	465	266
フリー・キャッシュ・ フロー	166	362	779	105	△130

(注) フリー・キャッシュ・フローに記載する金額は、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローに記載する金額を合計した金額になります。

2021年5月期の決算概要 (直近5年間の期末株価、各利益率の推移)

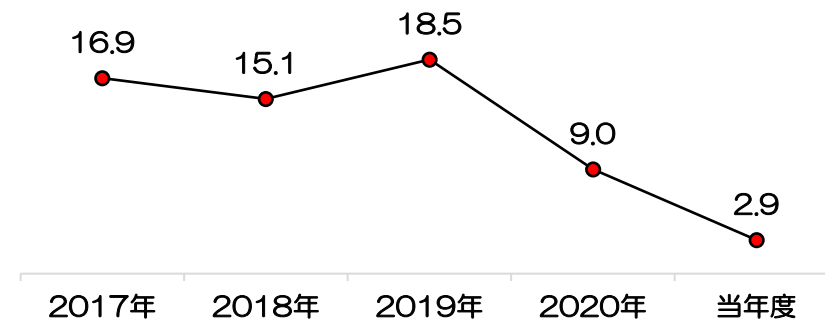
期末日の株価

(単位：円)



自己資本当期純利益率

(単位：%)



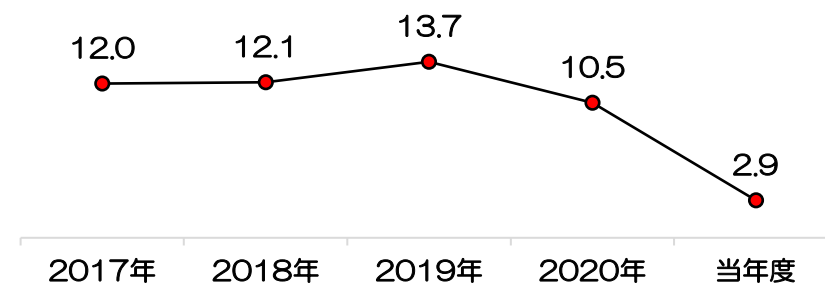
1株当たり純資産

(単位：円)



売上高営業利益率

(単位：%)



2022年5月期の経営課題への取組み

当社を取り巻く環境	翌期の取組み	中長期の取組み
引き続き底堅い内需 ・リプレース需要の取込み ・インフラの老朽化 ・都市圏の建設需要	新製品開発の強化 ・年間に2機種の開発 ・客先仕様機への対応	新製品開発力の向上 (継続) ・マーケティングの強化
少子高齢化社会 ・生産人口の減少 (設備の省人化等の需要) ・内需の縮小	海外売上高の拡大 ・東南アジアを重点に展開→販路の開拓、販売強化	
新型コロナウイルス感染症の影響	ブランディング活動の強化 ・新製品(機能アップ)+外観デザインの刷新&会社ロゴの変更 →ブランド認知度の向上	
(株)東京証券取引所における市場区分変更への対応	付加価値の向上 ・ICT技術による業務改善 ・品質向上の強化 →ムダ取りの徹底(継続)	適正在庫のコントロールの具現化を目指す。 ICT技術を備えた製品とサービスの充実
	人材育成の強化	(継続)
	市場区分変更への対応 ・企業体制の整備	企業価値の向上 ・多様化する社会(雇用・環境等)への対応



ご参考：2022年5月期の中期計画 (直近2年間の実績と3ヵ年中期計画について)

(単位：百万円未満切捨て)

	直近2年間の実績		※2022年5月期の中期計画		
	2020年 (実績値)	当年度 (実績値)	2022年 (翌期予想)	2023年 (ご参考)	2024年 (〃)
売 上 高	5,056	3,500	4,000	4,600	5,000
経 常 利 益	542	178	100	460	600
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	350	118	65	300	390

※ 2022年5月期の中期計画について

- 前頁に記載する取組みの結果を想定したものであります。
- 2022年は翌期予想(経営指標)、2023~2024年はご参考となります。

新製品のご紹介



ドリル孔あけ&丸鋸切断複合機「CBF-4020 II-ATC」

【特徴】

- 大型素材に対応可能
- **新技術による**切断の安定性向上、切断騒音の低減
- 3軸同時加工による最短の孔あけ加工
- **自動工具交換装置(ATC)の装備**、段取り時間の削減
- オプションの自動搬入装置、自動搬出装置で更なる効率化



平板ドリルマシン オートポラー「ABP-Ⅲシリーズ」

【特徴】

- ATC装置の自動工具交換、更なる生産性の向上
- **操作性の向上**(15.6型タッチパネル液晶ディスプレイ採用)
- 1 製品データで下孔加工からタップ加工までの連続運転
- 自動運転中の工具の寿命に応じて、自動の工具交換の実施
- 工具寿命管理機能の搭載、機械停止時間の削減

HUMAN HEART

お客さまそれぞれの、課題に応える加工システムをご提案します。